

目 次

1 . 平成 2 1 年川越市入込観光客数の概要	2
2 . 観光アンケート調査の統計・分析	3
2 - 1 . 観光アンケート調査の趣旨	3
2 - 2 . 観光アンケート調査の方法	3
2 - 3 . 観光アンケート調査の結果	5
2 - 3 - 1 . 出発地	5
2 - 3 - 2 . 性別	10
2 - 3 - 3 . 年齢	10
2 - 3 - 4 . 同行者	11
2 - 3 - 5 . 交通手段	11
2 - 3 - 6 . 滞在期間	12
2 - 3 - 7 . 観光時間	14
2 - 3 - 8 . 来訪回数	14
2 - 3 - 9 . 認知方法	15
2 - 3 - 10 . 立ち寄り観光地	16
2 - 3 - 11 . 交通費	17
2 - 3 - 12 . 宿泊費	17
2 - 3 - 13 . 飲食費	18
2 - 3 - 14 . 入館料・入場料	18
2 - 3 - 15 . お土産品購入費	19
2 - 3 - 16 . 要望	19
2 - 3 - 17 . 意見・感想	20
3 . 観光消費額	21

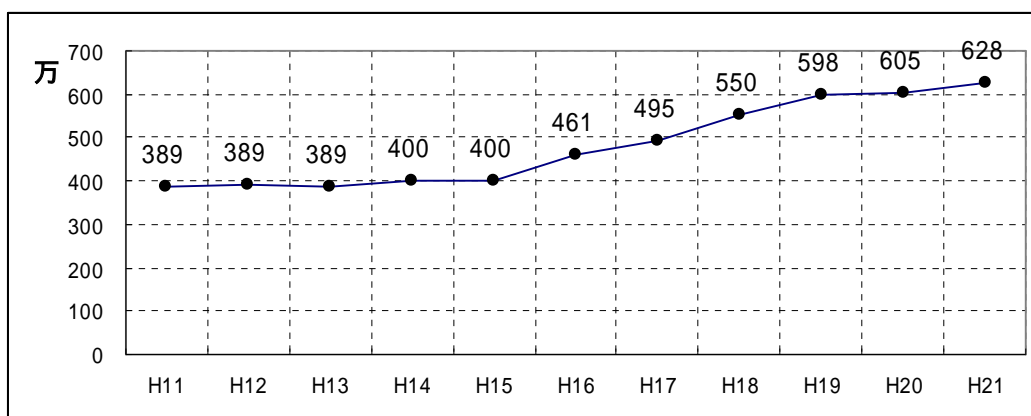
1 . 平成 2 1 年川越市入込観光客数の概要

平成 21 年に川越を訪れた観光客数は 627 万 5 千人であった（外国人観光客含む）。前年に比べ 22 万 8 千人の増加となり、伸び率は 3.8%であった。

このうち、喜多院・時の鐘・菓子屋横丁の観光客数は、前年に比べ大幅に増加した。これは、川越市がNHK連続テレビ小説「つばさ」（放送：平成 21 年 3 月 30 日～平成 21 年 9 月 26 日 全 156 回）の舞台となり、蔵造りの町並みが残る一番街周辺が毎日のように全国ネットで放映されたことが大きな要因と考えられる。

平成 21 年川越まつりに訪れた観光客数は 75 万人であり、前年より 42 万人の大幅減となった。これは、観光客のカウントの重複を回避するため、入込観光客の調査方法を見直したことによって減少したものである。

（表 1） 過去 10 年間の川越市入込観光客数



平成 21 年に川越を訪れた外国人観光客は 25,000 人となった。

前年に比べ 14,000 人の減少となり、35.9%の減少であった。

これは、世界的な経済不況等によって、日本全体を訪れる観光客数が停滞したことが主たる要因と考えられる（日本政府観光局（JNTO）によると、2008 年の訪日外客数は 8,350,835 人、2009 年は 6,789,658 人で、大幅に減少）。

2. 観光アンケート調査の統計・分析

2-1 観光アンケート調査の趣旨

観光アンケート調査は、観光客一人一人に対する聞き取りによるもので、その結果を基に、観光客の出発地、アクセス方法、立ち寄り観光地、観光消費額など、観光客の基本的な動態を把握することを目的としている。

これまでに、平成17年（標本数：9,924件、調査期間：平成17年1月～平成17年12月）、平成19年（標本数：7,491件、調査期間：平成19年1月～平成19年12月）、平成20年度（標本数：9,341件、調査期間：平成20年4月～平成21年3月）と当調査を実施してきた。

当調査の実績に基づき、平成21年度も同様の調査を行うことによって、経年の変化を把握するとともに、観光客の特性を分析することによって今後の観光振興策の重要な資料とする。

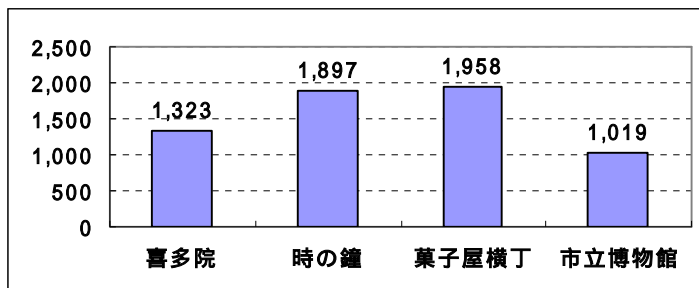
2-2 観光アンケート調査の方法

平成21年4月から平成22年3月までの1年間を調査期間とし、主要観光地点4ヶ所において、各地点を訪れる観光客に対し、聞き取りによる計6,197件の観光アンケート調査を実施した。

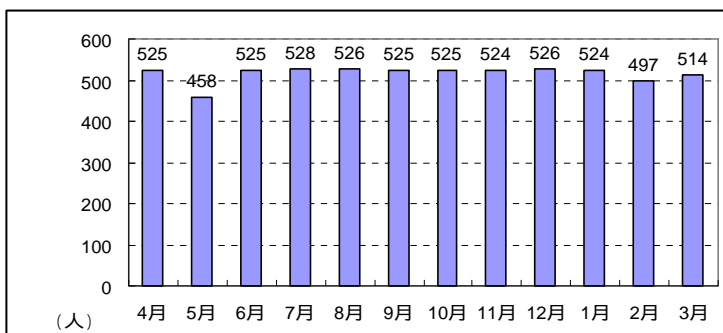
アンケート調査地点および各地点の聞き取り件数は図1)のとおりである。

また、(図2)のとおり、6,197件のアンケート調査に偏りが出ないように、月毎に調査を実施している。

(図1) 観光アンケート調査地点と聞き取り件数



(図2) 各月の観光アンケート調査数



(参考) 実際に使用した観光アンケート調査表

(表)

<p>越 市 観 光 調 査 票</p> <p>調査員の方へ アンケートの際は、右の地点年、月、日の欄を最初に数字だけ記入し、問・以降は該当する項目を丸で囲み直接記入してください。右の欄内には記入しないでください</p>		<p>地点</p> <p>年(平成)</p> <p>月</p> <p>日</p>	<p>調査員</p> <p>調査員</p> <p>調査員</p>
<p>問1 お住まい、性別、年齢をお教えてください。</p> <p>(1) 都道府県名() (海外の方は国名) 埼玉県 東京都 神奈川県にお住まいの場合、市区町村名()</p> <p>(2) 男性 女性</p> <p>(3) 10歳代 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳以上</p>		<p>性別</p> <p>年齢</p>	<p>調査員</p> <p>調査員</p> <p>調査員</p>
<p>問2 どなたといらっしゃいましたか。(ひとつだけ)</p> <p>ひとり 夫婦 子供連れ家族</p> <p>その他家族(両親や兄弟など) 友人知人 仕事仲間</p> <p>地域の団体 学校の団体 その他</p>		<p>調査員</p> <p>調査員</p>	<p>調査員</p> <p>調査員</p>
<p>問3 川越までの主な交通手段は何ですか。(ひとつだけ)</p> <p>複数の交通手段を利用している場合は、最後に利用した交通手段</p> <p>JR線 東武線 西武線 路線バス・タクシー</p> <p>観光バス 自家用車 バイク・自転車 徒歩</p>		<p>調査員</p> <p>調査員</p>	<p>調査員</p> <p>調査員</p>
<p>問4 川越へ滞在される(された)期間はどのくらいですか。(ひとつだけ)</p> <p>日帰り 1泊 2泊 3泊 4泊以上</p>		<p>調査員</p> <p>調査員</p>	<p>調査員</p> <p>調査員</p>
<p>問5 川越での観光時間はどのくらいですか。(ひとつだけ)</p> <p>1時間程度 2時間程度 3時間程度 半日</p> <p>1日 1日以上</p>		<p>調査員</p> <p>調査員</p>	<p>調査員</p> <p>調査員</p>
<p>問6 川越にはこれが何回目のご旅行ですか。(ひとつだけ)</p> <p>初めて(1回目) 2回目 3回目 4回以上</p>		<p>調査員</p> <p>調査員</p>	<p>調査員</p> <p>調査員</p>

(裏)

<p>問7 川越をどのようにしてお知りになりましたか。(複数回答可)</p> <p>テレビ(つばさ以外)・ラジオ NHK「つばさ」 新聞・雑誌</p> <p>ポスター・パンフレット 知人などに勧められて 旅行会社のツアー</p> <p>インターネット 最初から知っていた(地元の方も含む)</p> <p>その他()</p>	<p>調査員</p> <p>調査員</p> <p>調査員</p>
<p>問8 川越がNHK連続テレビ小説「つばさ」の舞台であることを知っていますか。</p> <p>知っている 知らない</p>	<p>調査員</p> <p>調査員</p>
<p>問9 川越のどこを観光されます(ました)か。(複数回答可)</p> <p>蔵造りの町並み 蔵造り資料館 時の鐘 菓子屋横丁 喜多院</p> <p>川越まつり会館 市立博物館 市立美術館 蓮聖寺 氷川神社</p> <p>成田山川越別院 その他()</p>	<p>調査員</p> <p>調査員</p> <p>調査員</p>
<p>問10 川越市内において、一人あたりいくらくらい使われます(ました)か。</p> <p>(1) 交通費(バス・タクシー代) 円 タクシーを複数人で利用の場合、人数で割った額</p> <p>(2) 宿泊費 円</p> <p>(3) 飲食費 円</p> <p>(4) 入館料・入場料 円</p> <p>(5) お土産購入費 円</p>	<p>調査員</p> <p>調査員</p> <p>調査員</p> <p>調査員</p> <p>調査員</p>
<p>問11 川越に対しての要望についてお聞かせください。(複数回答可)</p> <p>交通安全性の向上 駐車場の整備 観光スポットの充実</p> <p>無料休憩所・トイレの整備 観光案内板等の整備 公園の整備</p> <p>観光パンフレット・ガイドの充実 障害者への配慮</p> <p>レンタサイクルの導入 その他()</p>	<p>調査員</p> <p>調査員</p> <p>調査員</p> <p>調査員</p> <p>調査員</p>
<p>備考欄</p>	

また、調査にご協力頂いた観光客に対しては、調査終了後に「太麺焼きそばポケットティッシュ」を手渡した。

(参考) 太麺焼きそばポケットティッシュ



太麺焼きそば...川越市 B級グルメ

2 - 3 観光アンケート調査の結果

2 - 3 - 1 出発地

アンケート回答者総数 6,197 人のうち、国内が出发地の観光客は 6,092 人、国外が出发地の観光客は 98 人であった（7 人は不明）。

以下、出発地の分析を国内と国外とに分けておこなう。

(1) 国内

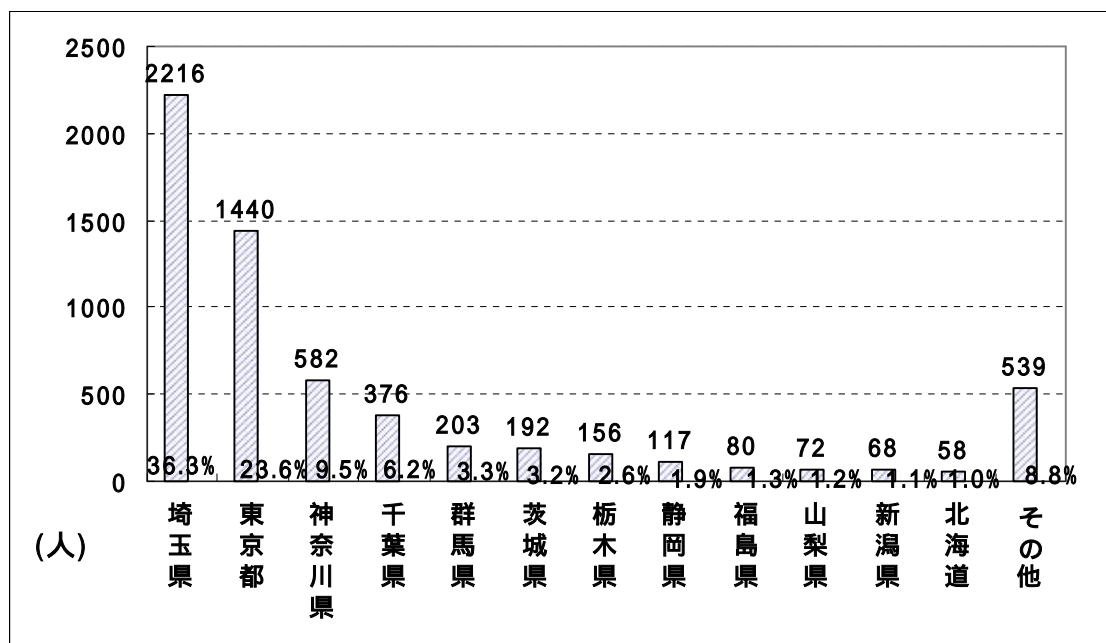
都道府県別

川越を訪れた観光客の 8 割以上が関東地方の各都県から出発しており、例年通り上位を占める結果となった（図 3）。特に、県内市町村および東京都を出发地とする観光客の割合が 59.9% であり、首都圏から約 1 時間で訪れることのできる立地特性を活かしたものと考えられる。

また、県内市町村および東京都以外を出发地とする観光客の割合は 40.1% であり、前年度より 0.7% 下回り、遠方から訪れる観光客割合がわずかではあるが減少した。

関東地方の各都県以外では、静岡県（117 人・1.9%）、福島県（80 人・1.3%）、山梨県（72 人・1.2%）から出発した観光客が上位の結果となった。全国の各都道府県別出发地は表 2 のとおりである。

(図 3) 出発地



(表 2) 都道府県別出发地

地方	件数	都道府県別（上位順に表記） カッコ内は人数
関東	5,237人	埼玉県(2,216),東京都(1,440),神奈川県(582),千葉県(376),群馬県(203),茨城県(192),栃木県(156),山梨県(72)
東北	227人	福島県(80),宮城県(57),岩手県(26),山形県(31),青森県(18),秋田県(15)
東海	203人	静岡県(117),愛知県(65),岐阜県(11),三重県(10)
北陸・信越	179人	長野県(86),新潟県(68),石川県(13),富山県(12),福井県(0)
近畿	70人	大阪府(38),兵庫県(17),京都府(7),滋賀県(1),奈良県(5),和歌山県(2)
九州・沖縄	60人	福岡県(27),熊本県(3),鹿児島県(10),沖縄県(4),長崎県(4),宮崎県(4),宮崎県(4),佐賀県(4),大分県(4)
北海道	58人	北海道(58)
中国	35人	広島県(12),岡山県(12),山口県(7),島根県(3),鳥取県(3)
四国	23人	愛媛県(7),香川県(6),高知県(5),徳島県(5)
計	6,092人	

各都道府県の地方区分は、郵便事業株式会社発行の郵便番号簿の地方区分に従った。

市区町村別（埼玉県・東京都）

全体の過半数以上に上る 59.9%を占めた埼玉県と東京都の観光客について、市区町村別出発地は、図4（埼玉県）、図5（東京都）のとおりとなった。

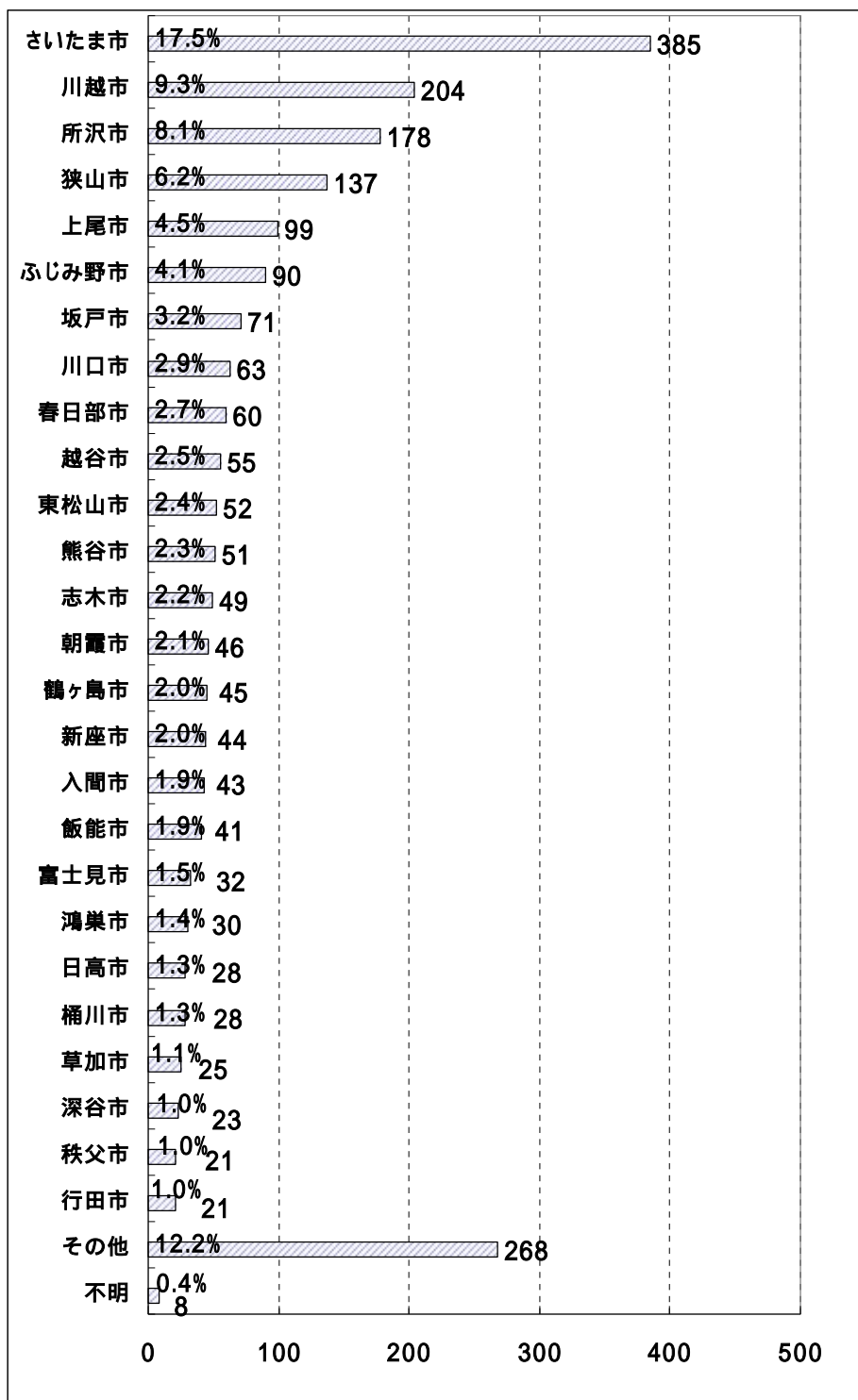
埼玉県

埼玉県内の出発地で最も多かったのはさいたま市であり、全体の 17.5%を占めた。距離の近さ、人口の多さ（1,216,958人、平成22年4月1日現在）、および、JR川越線、国道16号などによる交通アクセスの利便性の良さなどが最上位になった要因であると考えられる。

上位の所沢市（西武新宿線、県道川越・所沢線）、狭山市（西武新宿線、国道16号）、上尾市（県道川越上尾線）についても、川越に近く、交通アクセスの良さが上位になった要因であると考えられる。

その他上位の市町村についても、交通アクセスに優れたところがほとんどであった。

(図4) 埼玉県の市区町村別出発地



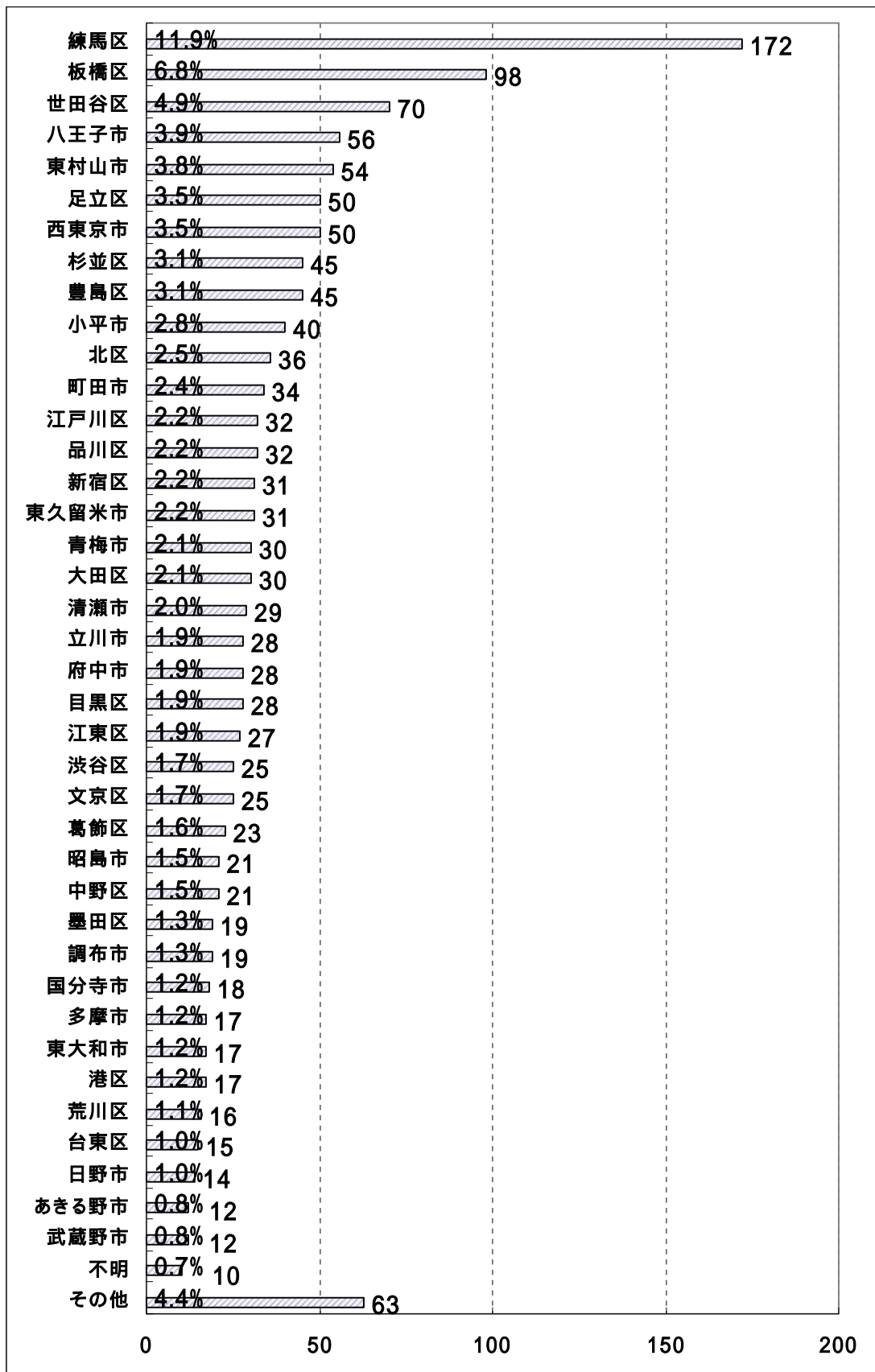
東京都

東京都内の出発地で最も多かったのは練馬区であり、全体の 11.9%を占めた。さい

たま市と同様、距離の近さ、人口の多さ（708,212人、平成22年5月1日現在）、および、西武新宿線、東武東上線、川越街道（国道254号）、関越自動車道（練馬IC～川越IC）など、交通の利便性が高いことが最上位になった要因と思われる。

2位の板橋区、3位の世田谷区についても、人口の多さや交通アクセスの良さなどが上位になった要因と考えられる。

（図5） 東京都の市町村別出発地



(2) 国外

国外から出発した観光客は 98 人であり、台湾（23 人）、香港（17 人）、アメリカ合衆国（15 人）、韓国（11 人）、オーストラリア（6 人）が上位となった。（表 3）

川越市川越駅観光案内所（ビジットジャパン案内所）の統計による平成 21 年外国人観光客利用者数の上位国は、アメリカ合衆国（719 人）、香港（544 人）、韓国（468 人）、中国（412 人）、台湾（371 人）で、主に、東アジアとアメリカ合衆国からの観光客が圧倒的に多いことから、同様の結果となった。

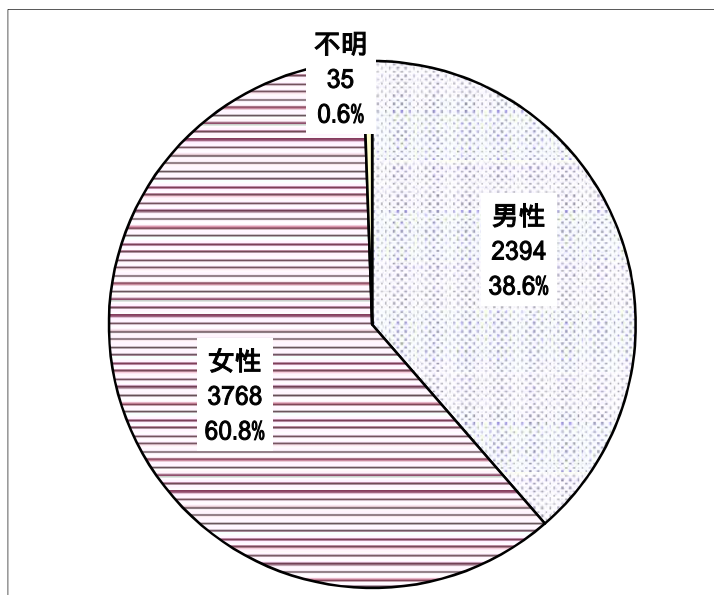
(表 3) 国別出発地

国 名	回答者数
台湾	23 人
香港	17 人
アメリカ合衆国	15 人
韓国	11 人
オーストラリア	6 人
中国	5 人
シンガポール	4 人
フランス、ドイツ、タイ、カナダ、イタリア	各 2 人
ラオス、ベトナム、ネパール、スペイン、オランダ、オーストリア、イギリス	各 1 人
計	98 人

2 - 3 - 2 性別

性別は、平成 20 年度の調査同様、女性が男性を上回っており、女性が 60.8%、男性が 38.6%という結果となった。（図 6）

（図 6） 性別

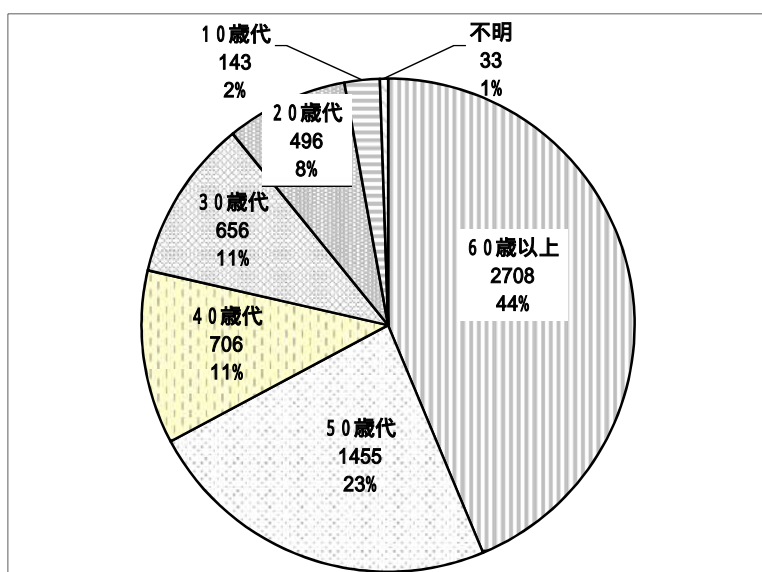


2 - 3 - 3 年齢

年齢の上昇に比例して、観光客割合も上昇した。（図 7）

50 歳代以上の中高年層が過半数の 67.2%となり、平成 20 年度の調査と同様となった。

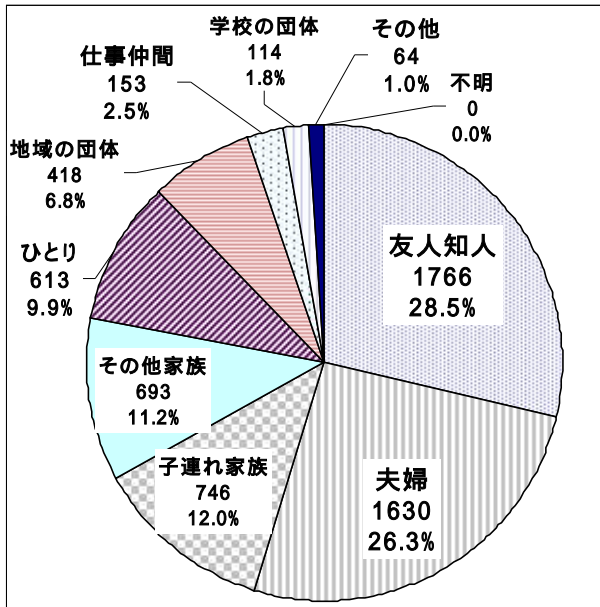
（図 7） 年齢



2 - 3 - 4 同行者

友人知人同士で川越を訪れる観光客が最も多く（28.5%）、夫婦（26.3%）、子連れ家族（12.0%）やその他家族（11.2%）も含め、家族で川越を訪れる観光客がおよそ半数を占める結果となった（49.5%）。（図8）

（図8） 同行者

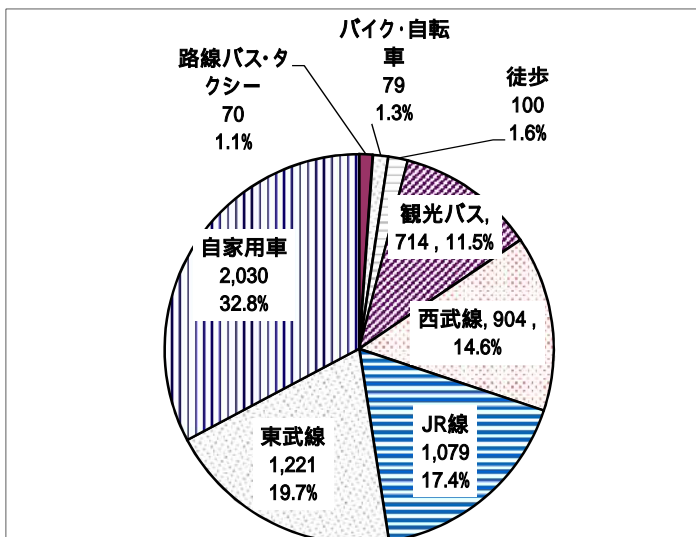


2 - 3 - 5 交通手段

川越に乗り入れている鉄道3社の利用客率を合計すると約半数（51.7%）になり、平成20年度の利用客率と比較すると、わずかながら上昇し（平成20年度は47.6%）、平成20年度同様、鉄道で川越を訪れている観光客が最も多い結果となった。

自家用車の利用客率は平成20年度と比較してほとんど変わらなかったが（32.2% 32.8%）、観光バスの利用客率は若干減少した（14.1% 11.5%）。（図9）

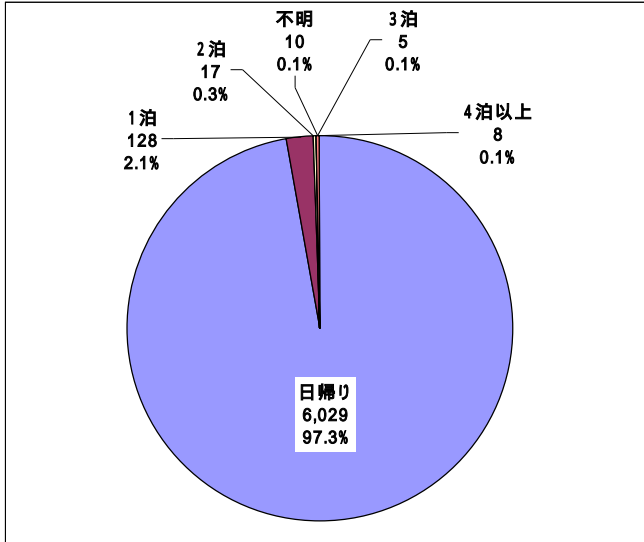
（図9） 交通手段



2 - 3 - 6 滞在期間

川越市内の滞在期間は日帰りが97.3%と、大半を占めた。これは、平成20年度(日帰りが95.1%)と同様の結果であった。(図10)

(図10) 滞在期間



宿泊観光客調査

川越市内の宿泊を伴う宿泊観光客の割合は、158人(2.6%)であり、その内訳は、国外が出発地の観光客が4人、国内が出発地の観光客が154人であった。

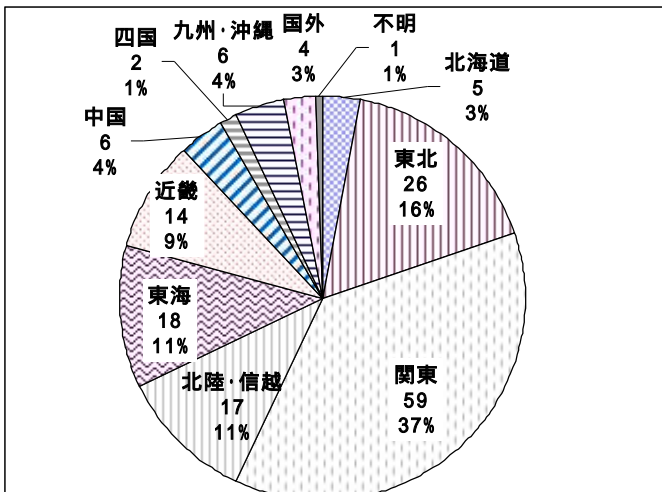
国外が出発地の観光客の内訳は、アメリカ合衆国(2人)、イギリス、台湾(各1人)であった。

国内の出発地の地方別内訳は(図11)、都道府県別内訳は(図12)のとおりである。

都道府県別では、神奈川県が最も多く(21人、13.6%)、次点は東京都(15人、9.7%)であった。

また、埼玉県を出発地とする観光客も11人(7.1%)が宿泊していた。

(図11) 宿泊観光客の地方別出発地



(図 12) 宿泊観光客の都道府県別出発地

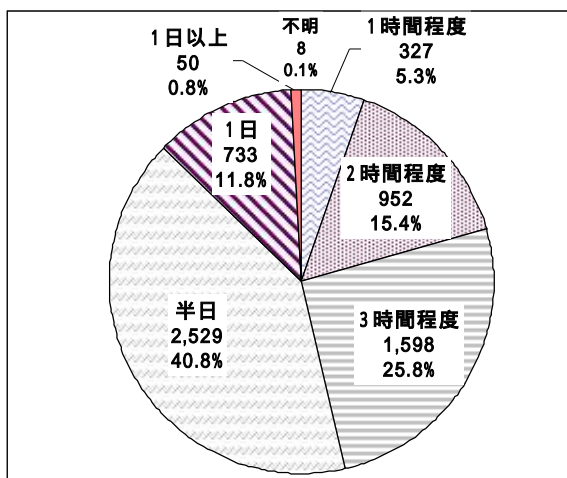


2 - 3 - 7 観光時間

川越は日帰り観光が主力となっていることから、観光時間が 3 時間程度から半日の観光客が大半を占めた。(図 13)

平成 19 年以降の観光アンケート調査と比較すると、観光時間が 1～3 時間程度の観光客率の推移は 35.1% (平成 19 年) 41.8% (平成 20 年度) 46.5% (平成 21 年度)、半日～1 日の観光客率の推移は 62.7% (平成 19 年) 55.9% (平成 20 年度) 52.6% (平成 21 年度) となっており、年々、観光時間が短時間化している傾向が見られる。

(図 13) 観光時間

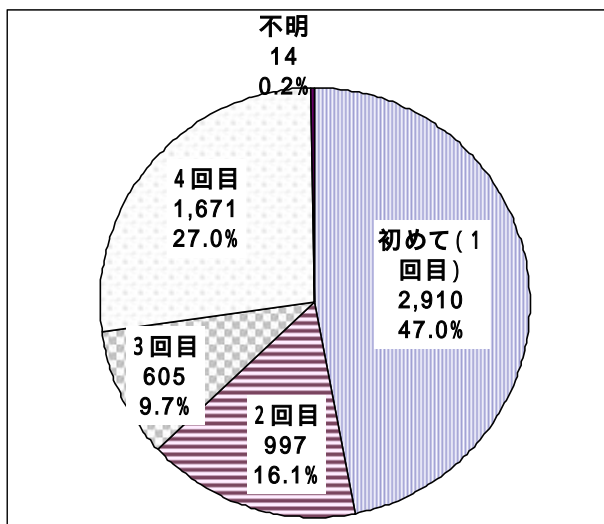


2 - 3 - 8 来訪回数

川越を「初めて」訪れた観光客は 47.0%、2 回以上訪れている「リピーター」は 52.8% であった。(図 14)

リピーターの中でも 4 回以上訪れているリピーターが多くを占めた (27.0%)。これらは、平成 20 年度とほぼ同じ水準であった。

(図 14) 来訪回数

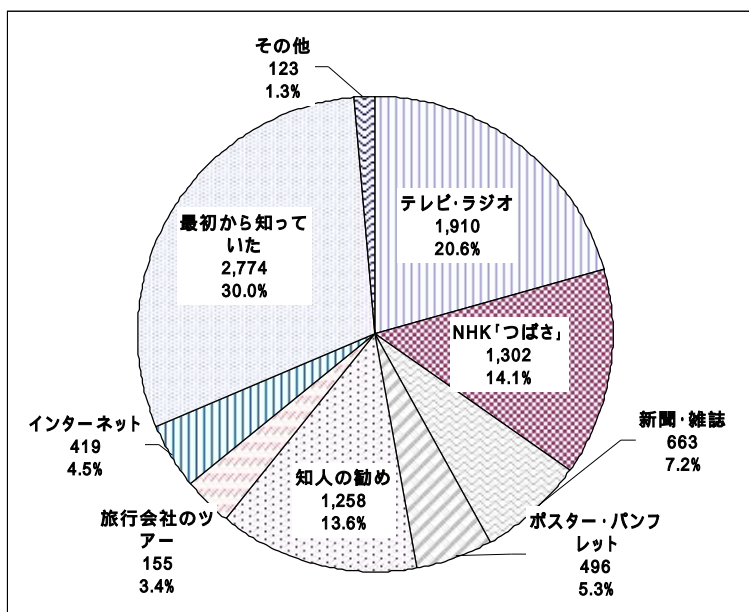


2 - 3 - 9 認知方法

川越を知った方法は、「最初から知っていた(地元の人も含む)」が30.0%と最も多かった。(図15) そのうち、地元の方を除くと2,585人となり27.9%という結果となった。また、平成20年度と比較してテレビ・ラジオ(つばさ以外)で知った人は(23.0% 20.6%)、新聞・雑誌で知った人は(10.6% 7.2%)とわずかに減少している。一方で、ポスター・パンフレットで知った人(4.9% 5.3%)と、インターネットで知った人(4.3% 4.5%)が、わずかながら増加している。

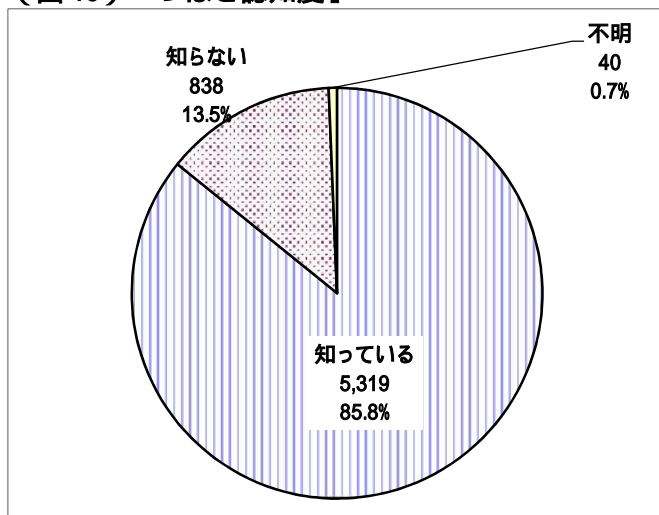
NHK「つばさ」を見て川越を知った人の割合は14.1%で、ドラマの影響で川越を訪れた人が相当数いたと推測される。

(図15) 認知方法



また、川越の認知方法とあわせて、「つばさ」の認知度についても調査を行った。「つばさ」を知っていると答えた人は全体の85.3%で、大半の観光客に認知されていることが分かった。(図16)

(図 16) 「つばさ認知度」



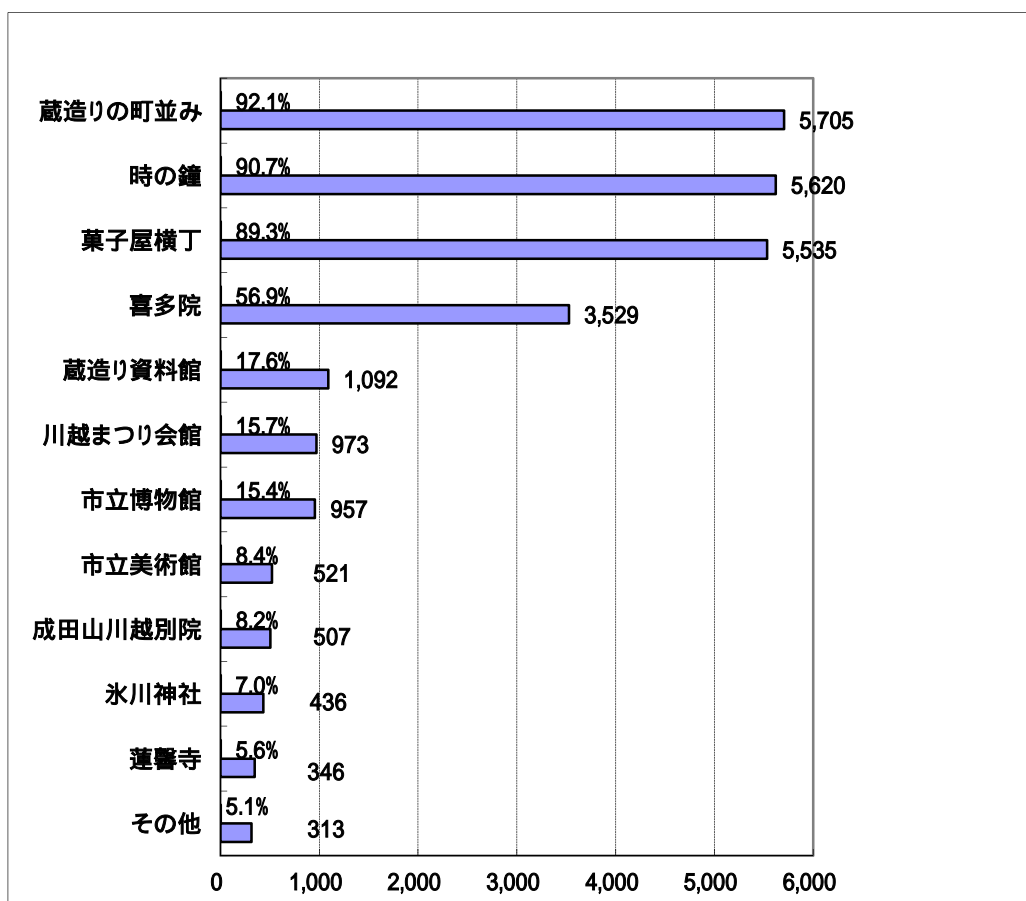
2 - 3 - 10 立ち寄り観光地

立ち寄り観光地は、蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁が全体の9割以上を占める結果となった。また、平成20年度の観光アンケート調査と比較しても、3地点とも訪れる割合が上昇している(蔵造りの町並み(90.7% → 92.1%)、時の鐘(87.0% → 90.7%)、菓子屋横丁(86.0% → 89.3%))。調査の結果から、観光客のほとんどが蔵造りの町並み周辺を訪れていることが分かる。(図17)

蔵造り資料館、川越まつり会館、市立博物館、市立美術館の4館を訪れた人の割合を平成20年度と比較すると、蔵造り資料館(14.4% → 17.6%)、川越まつり会館(9.5% → 15.7%)、市立博物館(11.8% → 15.4%)、市立美術館(4.5% → 8.4%)と、いずれも訪れた割合が上昇している。

また、観光客一人につき、平均4.07箇所の観光地を訪れていた。

(図17) 立ち寄り観光地



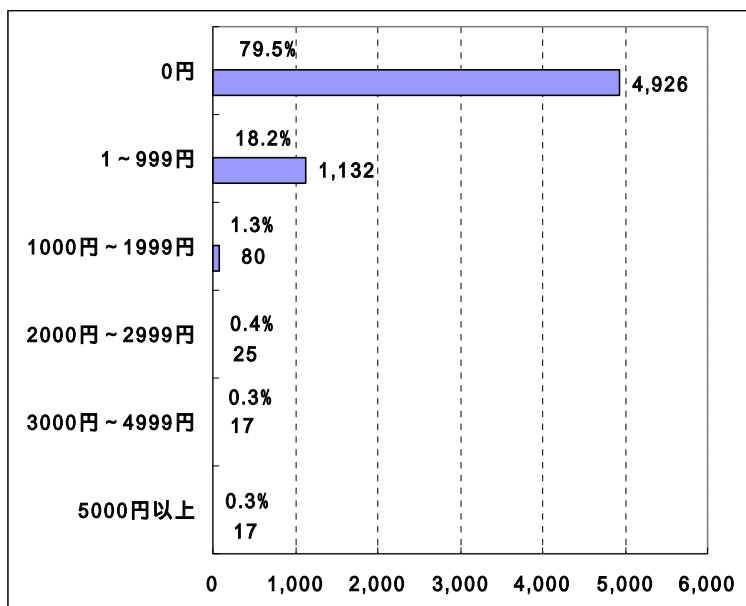
回答者1人につき、複数回答あり

割合(%)は、それぞれの項目を回答した人数を、回答者総数(6,197人)で割ったもの

2 - 3 - 1 1 交通費

観光客の市内における交通費支出は、「支出なし」が 79.5%と多くを占めている。「支出する」割合はおよそ 20.5%であり、その多くは 1,000 円未満の支出であった。また、一人あたりの平均交通費は 687 円であり、前年度の 481 円を大幅に上回った。(図 18)

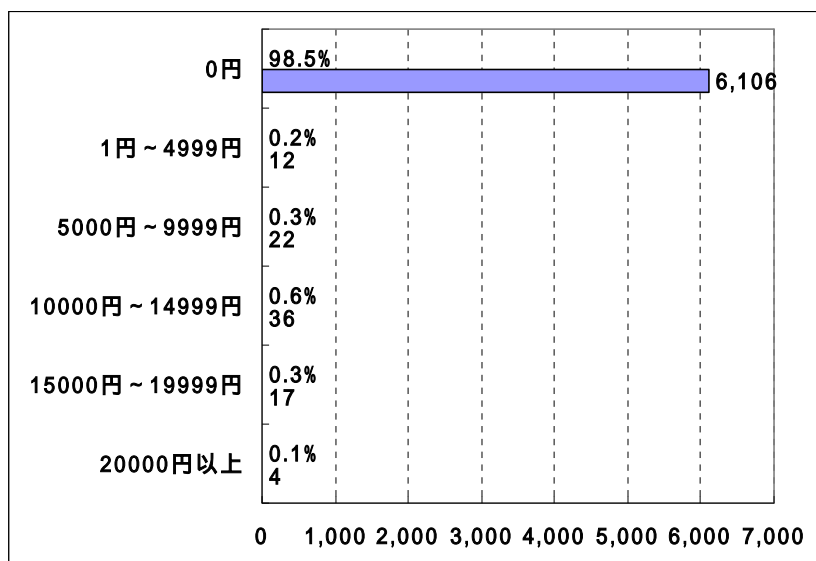
(図 18) 交通費



2 - 3 - 1 2 宿泊費

宿泊費を支出する観光客の割合は全体の 1.5%で、前年度の 1.8%よりも減少した。この結果から、観光客のほとんどは日帰りか、川越以外の場所に宿泊していることが伺える。また、宿泊費を支出する観光客一人あたりの平均宿泊費は 10,190 円で、平成 20 年度の 10,808 円よりも減少した。(図 19)

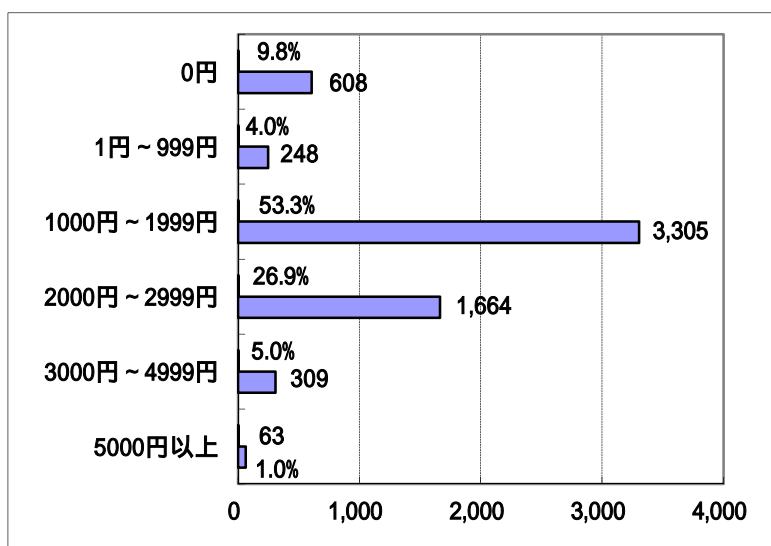
(図 19) 宿泊費



2 - 3 - 1 3 飲食費

市内における飲食費は「支出なし」が9.8%であり、平成19年の17.6%、平成20年度の16.8%と比較して減少しており、消費活動率は上昇していると言える。飲食費は1,000円台が最も多く、一人あたりの平均飲食費は1,622円で、前年度の1,635円よりも減少した。(図20)

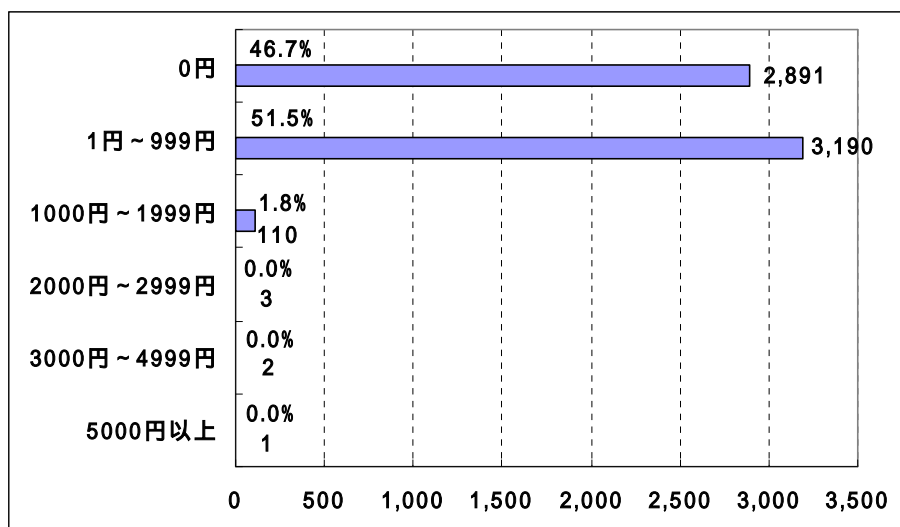
(図20) 飲食費



2 - 3 - 1 4 入館料・入場料

市内における入館料・入場料は「支出なし」が46.7%、「支出あり」が53.3%であった。「支出なし」の割合は前年度が53.3%であったことから、消費活動率は上昇していると言える。入館料・入場料の支出は1,000円未満が最も多く、一人あたりの平均入館料・入場料は439円で、前年度の457円よりも減少した。(図21)

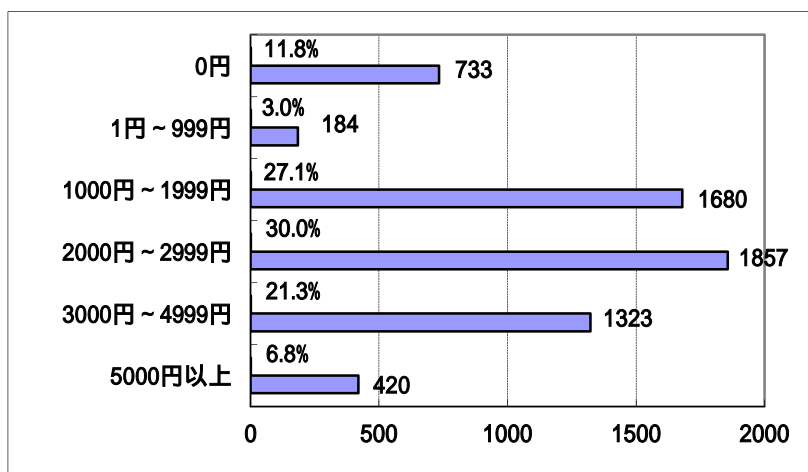
(図21) 入館料・入場料



2 - 3 - 15 お土産購入費

市内におけるお土産購入費は、「支出なし」が11.8%、「支出あり」が88.2%であった。お土産購入費は、2,000円以上、3,000円未満が最も多く、1人あたりの平均購入額は2,300円であった（平成20年度は2,314円）。（図22）

（図22） お土産購入費

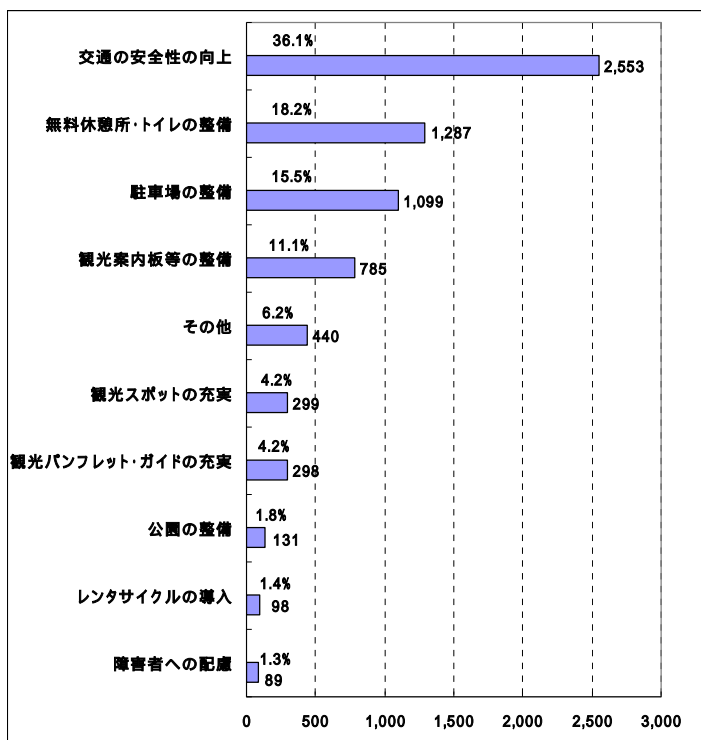


2 - 3 - 16 要望

「交通の安全性の向上」（36.1%）が要望として最も多く、平成20年度の観光アンケートの結果と同じであった。（図23）

次点は、平成20年度の結果同様、「無料休憩所・トイレの整備」で、3番目に「駐車場の整備」という結果であった。

（図23） 要望



回答者1人につき、複数回答あり。（%）は回答者総数（6,197人）に対する割合である。

2 - 3 - 17 意見・感想

川越に対する具体的な意見・感想については、主に下記のような意見があった。中でも、「駐車場の整備」、「交通安全対策」、「歩行者天国の実施」等の意見が多かった。また、NHK ドラマの「つばさ」を見て川越を訪れたという意見も多数あった。その他にも、「トイレを清潔に保って欲しい」という意見や、「案内板をもっと見やすくして欲しい」、「レンタサイクルを設置して欲しい」などといった要望があった。

(表4) 川越に対する主な意見・感想

- ・駐車場の数が少ない。
- ・無料の駐車場を増やして欲しい。
- ・市役所の駐車場をもっと分かりやすく、大きく示して欲しい。
- ・お店の休みがバラバラなので、統一して同じ日に休みにしてもらいたい。
- ・菓子屋横丁が狭くてがっかりした。お菓子の種類をもっと増やして欲しい。
- ・レンタサイクルを川越駅の近くに作って欲しい。
- ・つばさを見て、川越に来たいと思った。
- ・車が多くて歩きにくい。道が狭い。
- ・土日だけでも歩行者天国を実施して欲しい。
- ・車で観光に来た場合、道案内板が少ない。特に、高速を下りてからの案内板が少ない。
- ・川越市駅にも観光案内所を作って欲しい。
- ・イーグルバスの喜多院の乗り場が分かりにくい。
- ・本丸御殿が改修中だったので残念。
- ・駅のコインロッカーが少ない。
- ・施設の入館料をもっと下げて欲しい。また、シルバー割引などを実施して欲しい。
- ・案内板の数が少ない。
- ・商店街でシャッターの下りた店舗がいくつかあった。なんとかならないか。
- ・乳児用のオムツを取り替えることができる場所をもっと作って欲しい。
- ・休憩所をもっと作って欲しい。
- ・レトロな感じをもっと出して欲しい。古い町並みを保存して欲しい。
- ・売っているお菓子の値段が高すぎる。
- ・トイレを清潔にして欲しい。
- ・トイレを洋式化して欲しい。
- ・トイレのある場所が分かりにくい。
- ・外国語版の案内板を設置して欲しい。
- ・パンフレットの表示が分かりにくかった。また、もっと内容を充実させて欲しい。
- ・喫煙コーナーを設けて欲しい。
- ・車いすでもアクセスしやすいまちづくりをして欲しい。
- ・芋以外の特産品をもっとPRして欲しい。
- ・観光化されすぎているという印象を持った。

3. 観光消費額

観光する際に一般的に消費する「交通費」、「宿泊費」、「飲食費」、「入館料・入場料」、「お土産購入費」の5項目それぞれの平均消費額を調査し、これを基に、観光客一人あたりの平均消費額や川越にもたらされる全体の消費額、さらには、平成20年度と比較してどの程度の変化が見られたかを分析した。

平成21年の入込観光客数は627万5千人であったが、家族単位で訪れる時などは全員が消費活動を行うわけではないので、平成17年からの調査同様に、今回の調査結果からも家族単位で川越を訪れている観光客が多かったため（11ページ、図8参照）、実際に消費活動を行う人数を入込観光客数627万5千人の約40%の250万人と仮定し（平成20年度は604万7千人の約40%である241万人を用いた）、この数値から消費活動率などを踏まえて、川越にどの程度の消費がもたらされたかを試算した。

（表5）消費項目別の観光客平均消費額

項目	消費活動率	平均消費額	消費活動人数	消費総額
交通費	20.5%	687円	512,500人	352,087,500円
宿泊費	1.5%	10,190円	37,500人	382,125,000円
飲食費	90.2%	1,622円	2,255,000人	3,657,610,000円
入館料・入場料	53.3%	439円	1,332,500人	584,967,500円
お土産購入費	88.2%	2,300円	2,116,800人	4,868,640,000円
計				9,845,430,000円

消費活動率…アンケート回答者総数（6,197人）に対する、各項目で「支出あり」と回答した観光客の割合。

平均消費額…各項目において、観光客1人当たりが消費する平均金額。

消費活動人数…各々の項目で消費活動を行う人数。消費活動を行う対象となる観光客数250万人に各々の消費活動率を乗じたもの。

消費総額…各々の項目で消費される総額。平均消費額に消費活動人数を乗じたもの。

消費総額で最も高かったのは、お土産購入費の約48億円、最も低かったのは交通費の約3億5千万円であった。また、平均消費額で見ると、最も高かったのは、宿泊費の10,190円、最も低かったのは、入館料・入場料の439円であった。

また、各々の消費総額を合計し、川越にもたらされる消費額全体を試算したところ、約98億4,500万円となった。平成20年度の結果（約89億7,400万円）と比較する

と、約 10%の上昇となった。その要因の一つとしては、NHK「つばさ」による入込観光客数の増加が考えられる。

観光客一人あたりの平均消費額については、「日帰り観光客」、「宿泊観光客」、「観光客全体」に分けて算出した。（表 6）

また、宿泊観光客については、「宿泊費を支出する観光客」（ホテルや旅館に宿泊と推定）と「宿泊費を支出しない観光客」（家族や友人の家などに宿泊と推定）がいたため、両者を区別して算出した。

（表 6）滞在形態別の観光客平均消費額

項 目	人数（人）	平均消費額（円）
宿泊観光客（宿泊費支出あり）	73	18,668
宿泊観光客（宿泊費支出なし）	85	4,921
日帰り観光客	6,039	3,826
全体	6,197	4,016

「宿泊費支出あり」の宿泊観光客の平均消費額は 18,668 円、「宿泊費支出なし」の宿泊観光客は 4,921 円、日帰り観光客は 3,826 円であった。

また、観光客全体では 4,016 円だった。これは、3,726 円であった平成 20 年度の観光アンケート調査から 290 円増加した。